

海岸漂着物量調査結果（平成 30 年度）について

〔環境保全課〕

1 趣旨

県内の海岸への漂着物の量とその種類を把握し、今後の漂着物の発生源対策のための基礎資料とするため、平成 30 年度から毎年継続して調査を実施することとしており、第 1 回目の調査結果をとりまとめた。

2 方法

調査にあたっては、県内の海域を西部（広島湾）、中部（安芸灘・燧灘）、東部（備後灘・備讃瀬戸）の 3 地区に分類して、各地区の海岸において年 4 回実施した。

3 調査結果

(1) 海岸漂着物の量

- 海域毎の年平均漂着量は、重量は約 7～52 t、体積は約 99～1,714 m³であった。
- 海岸漂着物量は、年間を通して西部で特に多い傾向が見られ、全体のおよそ 8 割を占めていた。
- 本土側の海岸と比較して、島しょ部の海岸において海岸漂着物が多い傾向が見られた。

年平均漂着量	西部	中部	東部
重量	52 t	13 t	7 t
体積	1,714 m ³	203 m ³	99 m ³

(2) 海岸漂着物の種類

- 西部においては、漁業活動に関連するごみ（発泡スチロール製フロート及びカキ養殖用パイプ）が大部分を占めていた。
- 中部および東部については、陸上の生活由来のごみ（ペットボトル、その他のプラスチック類等）が大部分を占めていた。
- 漁業活動に関連するごみを除くと、西部・中部・東部における海岸漂着物量に大きな差はなかった。